

目次

口絵

「災害対応の地域研究」シリーズの刊行にあたって i

関連地図（アチエ州、バンドアチエ市とその周辺）／アチエ災害・紛争復興関連年表 iv

はじめに……… 1

アチエへ向けられるまなざし／本書のねらいと災害対応研究小史／アチエの地理と被害状況／アチエの民族構成

第一部 紛争下の被災——津波が解く「困い込み」

第1章 情報空白地域を襲う津波……… 31

1 旗に込めた思い——届かなかった津波知識 34

2 写真と張り紙——被害情報の収集 39

3 ツナミとイブナ——インドネシアの津波認識 45

4 モスクと文書——歴史・文化の被災 50

被災から
半年

第2章 統制を破る支援の波……… 59

1 監視下の支援——インドネシア政府・国軍 62

2 支援者の役割分担——コンソーシアムとポスコ 67

3 紛争地から被災地へ——戒厳令を解いた日本のNGO 74

4 情報共有と調整——アチエ・ニアス復興再建庁 81

被災から
半年

第3章 支援で生まれる秩序……………87

- 1 代表を選ぶ——避難所 89
- 2 窓口を置く——ポストと「三日ルール」 95
- 3 組んで働く——女性の生活再建支援 102
- 4 一緒に使う——農業加工機材の供与 110

被災から
半年

第二部 復興再建期——世界と再び繋がるアチエ

第4章 被災地にあふれる笑顔……………119

- 1 遊び心——対話の材料としての津波 122
- 2 食事と看板——世界の被災地アチエ 130
- 3 セミナーとお菓子——裏方で仕切る女たち 136
- 4 防災教育——被災者である前に教師として 141

被災から
1～2年

第5章 さまざまな弔い方……………149

- 1 骸骨の丘——紛争下の弔い 151
- 2 集団埋葬地——墓標なき慰霊 157
- 3 再埋葬——埋めきれない思い 162
- 4 昇天の間——死者とともに生きる 168

被災から
1～3年

第6章 住宅再建とコミュニティ……………177

- 1 復興住宅の見本市——ランバロスケップ村 179

2 海岸沿いの住宅再建——トルコ村 186

3 郊外の高台移転——中国村 190

4 近郊の埋立地——仏陀ツーチー村 194

被災から
2～4年

第三部 社会の復興——災害で生まれる新しい社会

第7章 亀裂の修復と社会の再生……………203

- 1 英雄の死——独立紛争への終止符 206
- 2 ボランティア——防災と「外助」 212
- 3 フイクション——国民的連帯の再生 219
- 4 公園と記念碑——世界への応答 226

被災から
5年目以降

第8章 津波の経験を伝える……………237

- 1 学術交流——「メッカのペランダ」から防災学の拠点へ 239
- 2 防災学専攻——インドネシアの大学院で二校目 245
- 3 物語——タイプライター・プロジェクト 252
- ツナミ（アミルッディン・マナフ著） 260

被災から
7年目以降

第9章 津波のうねり……………263

- 1 内陸地震への支援——州内格差の解消に向けて 266
- 2 行政改革とイスラム——特別自治州のジレンマ 273
- 3 カフェとヘルメット——違いがわかる楽しみ 280
- 4 津波後世代の誕生——マルチメディアを体現する人々 284

被災から
8年目以降

おわりに.....291

「思いのほか明るい表情」をどう理解するか／社会の復興と個人の復興／よりよい社会を目指して——災害復興を通じた社会の課題への取り組み

コラム1 アチエの女性たち 58

コラム2 旗とカーレース 116

コラム3 アンワルおじさん 198

コラム4 会議と観光は続く 236

参考文献 306

あとがき 317

索引 328